

# ジモト で 福島県版 はたららく



## 地元就職を考えてみよう

これから就職を考えているみなさんの中には、  
地元「残る」「離れる」という決断で

悩んでいる人もいるのではないだろうか。

この冊子では、地元企業で活躍する先輩の

実際の仕事や休日の過ごし方などを紹介。

地元就職ならではの魅力とやりがいについて

聞いてみました。



地元就職を考えてみよう ..... 2

魅力発信と風評被害の払拭へ  
 ともに歩む「小さな町の大きな挑戦」 ..... 4

阿部 健人さん

国見まちづくり株式会社 道の駅国見あつかしの郷 コンビニエンスストア店長 2017年入社

新薬の開発を通して  
 新しい「福島」を世界に発信したい ..... 8

佐藤 隆宏さん 日本全薬工業株式会社 研究開発担当 2013年入社

被災3県の高校生・大学生の就職に関するアンケート ..... 12

まずは、地元企業を知ることから始めてみよう ..... 14



# 魅力発信と 風評被害の払拭へ ともに歩む 「小さな町の大きな挑戦」



あ べ けん と  
**阿部 健人**さん

国見まちづくり株式会社  
道の駅国見あつかしの郷 コンビニエンスストア店長  
2017年入社 国見町出身 30歳

## コンビニ店長の転職経験を 活かし愛する地元へ

阿部健人さんは、道の駅にあるコンビニエンスストアの店長だ。そして、国見まちづくり株式会社の社員でもある。この店舗は、「道の駅国見あつかしの郷（以下、あつかしの郷）」の運営を担う同社が直営するという、珍しいスタイルのコンビニとして誕生した。

阿部さんの一日は多忙である。発注や精算の作業はもちろん、売り場に出て、レジやファストフードの対応、道の駅の事務所へ出向いて打ち合わせも行う。しかし、その表情はともも明るく、楽しそうだ。

「実は、前職もコンビニの店長でした」と話す阿部さん。職場は隣の伊達市だった。仕事上のさまざまな出来事に行き詰まりを感じ悩んでいたとき、地元の国見町で、新しくできる道の駅にコンビニが入ることを知ったという。

「ここしかない、と飛びつきました」と話す阿部さんは、大好きな地元で、経験を活かした仕事をスタートさせた。

## 復興のシンボルとして 町民の期待背負う道の駅

あつかしの郷は、2017年5月のオープンから約1年で来場者200万人を突破した大人気の道の駅だ。産直農産物や土産品を扱う物販コーナーやレストラン、ファストフードなどのほか、宿泊施設も備える。宮城との県境に近いこともあって、休日には仙台圏からの来場者も多い。オープン当初は、人口9800人の町に連日1万人を超える人が訪れ、「町が始まって以来の大事件」とまで評されたという。

指定管理者である国見まちづくり株式会社は、道の駅の運営を目的に2017年に設立された。現職の町長が代表取締役を務め、町や地元住



パソコンで発注作業。手早く、正確に。



## 阿部さんの ある日の一日

### 7:30 ● 出社

レジの精算と売上報告、本部へ送金。

### 8:45 ● 朝礼

道の駅のスタッフ全体で行う。

### 9:00 ● 業務開始

商品の発注作業に取り掛かる。

### 10:00 ● 翌日分の発注品の確認

翌日に届く予定の品物をチェックする。

### 12:00 ● 昼食

事務所で店の弁当を購入して食べることが多い。

### 13:00 ● 業務再開

店舗に出てレジ業務、商品棚の整理、ファストフードの調理などを行う。

### 17:00 ● 発注作業（続き）

### 17:30 ● 終業

※シフト勤務のため、13時出社や22時出社のケースもある。



道の駅の事務所で他部門の担当者と打ち合わせ。

## 「地元のために」 道の駅と思い共有するコンビニ

直営するコンビニも「地元のため

要産業である農業が厳しい状況に置かれたことで、本格的に動き出した。町の規模を考えると、経験豊かな民間企業に委託するかテナント入居を募って、確実に儲かる仕組みを作るのがセオリー。しかし国見町は、町の長年の思いと地元の期待、生産者の願いに応えるには行政主導しかないと考えた。「商業主義に走りすぎない、多少効率が悪くても地元に関心をもたずすることを優先、というのがモットーです」と話す表情は誇らしげだ。

「に」の理念を共有する。必ずしも売上げアップに直結しないこともあるが、「それぞれの店づくりに理解のある本部だと思えます」と阿部さん。例えば、道の駅の営業時間外もお土産を売えるようにと、店舗の約3分の1の棚を地元物産品に置き、特産の桃など生の果物も扱う。地元客のためには、盆や彼岸時期に供花をすずらりと並べたり、地域の商店と共同でクーポン券を配布したり。「こんなコンビニ聞いたことないです」と笑いながら、「他ではできそうにないことも、かなり自由にさせてもらっている」と感謝する。前述した阿部さんの「楽しそう」な仕事ぶりは、のびのび働けるからでもあるようだ。

## 上司に聞く

### 地元愛あふれる好青年 将来は道の駅の柱に



総務部長／道の駅国見あつかしの部  
総務担当支配人  
鈴木 亮一さん

店長を募集した際、意欲を持って真っ先に応募してきたことが印象的です。一緒に働いてみると思った通り仕事熱心で真面目、芯の強さも感じさせます。地元への愛着も強く、当社の人材として最適な人だと思いました。店づくりにおいては、本部のパッケージをそのまま踏襲するだけでなく、道の駅にある店舗ならではの個性を發揮しようと頑張ってくれています。頼もしいですね。

今はコンビニ店長という立場で、できることの範囲も限られています。柱として総合的な仕事をしてもらえるのと期待しています。まだ若いので、マネジメント能力を磨き、視野の広さを身に付けて、ますます成長してほしい。また、今のうちに、地元の農業や特産品の魅力をさらに学び、発信する力をつけてくれると心強いです。

# 福島県で はたらく魅力

## 家族と友人のそばにいられる 地元が好き

もともと地元が好きという阿部さんだが、町内に高校がないため町外の高校、短大と進学する。地元近くで就職先を探したが、国見町には求人が少なく、隣接する伊達市で一人暮らしをしながら働き始めた。

それでも地元を据えて働きたいという思いは消えず、国見まちづくり株式会社でコンビニ店長を募集することを知って、迷わず応募したという。役場に勤める同級生から、道の駅に寄せる地元の熱い期待を聞いたことも、後押しになった。



コンビニの一押し商品は、特産の桃を使ったお菓子！

数年ぶりに実家へ戻ると、やはり心が落ち着く。「家に帰って家族がいる環境がいい。しゃべったり笑ったりするだけでストレスも消えます」と笑顔になる。いざとなれば頼れる家族や古い友人がそばにいる、という安心感も心強い。

## お客さんから教わる地元の魅力 自慢は「農産物」と「人」

コンビニの店長という仕事は前

職と同じだが、現在の立場は運営母体の社員だ。「以前はオーナーが唯一の上司でしたが、今はいっぱいいる」と苦笑し、「聞く人によって判断が微妙に違い、これが会社組織かと思うこともある」と阿部さんは打ち明ける。

「でも、国見町を盛り上げたい思いと目指す方向はみな同じです」。迷ったときは、自分が一番共感する道を選ぶようにしているそう。

以前のコンビニと大きく違うのは客層だ。こちらは観光客が圧倒的に多く、女性の割合が高い。売れ筋商品も独特なので発注には気を遣う。うれしいのは、地元の名産品を褒められるときだという。

「お客様から『国見はいい人とおいしいものばかりね』言われます。地元の良さを、よそから来たお客様から教えてもらえるなんて、思ってもいませんでした」と話す。

## 6次産業や観光農園の夢 行政にできないことを実現したい

同社の目的の一つは若者の雇用の受け皿となることだが、道の駅

の運営だけでは、多くの新規採用を行えないのが現状だ。しかし、自慢の農産物と人材を活かした新規事業の芽は、生まれつつある。

例えば、パンや総菜、ケーキ類を製造している直営の加工施設には、経験豊富な職人が働いている。将来若手職人を受け入れてオリジナルスイーツを開発できないか、6次産業を自社で完結するの也不错い、などさまざまな可能性を秘める。



地元の食材を使った郷土料理を味わえるレストラン。

## 阿部さんの オフショット



### 不規則な休日が悩み。 ツーリングで気分転換する

仕事柄、休日が不規則で、せっかく地元に戻ってきててもなかなか友人と都合が合わせられないのが悩みだという阿部さん。「一番の友人とは、先日ようやく初めて食事に行きました」と苦笑い。古くからの仲間と何気ない会話で盛り上がる時間が宝物だ。

休みのときは、バイクに乗ってツーリングを楽しむという。お気に入りのルートは、国見と宮城県七ヶ宿を結ぶ通称「七ヶ宿街道」だ。「大小のワインディングを切り返して坂道を上った先、小坂峠から国見町を一望する眺めが最高です」と語る。



また、現在町内にはない観光農園や道の駅で直接手掛けられれば、農業体験を軸にツアーも企画できるだろう。なにしろ国見は、サクランボから桃、柿、リンゴなど一年中果物がおいしいことで知られているのだ。「行政にできないことを実現するのが、われわれの仕事」と阿部さん。

事業が広がれば若者を雇用でき、それによって国見町の魅力を発信すればもっと人を呼べる。「今は高校で町外へ出たらそのまま都会へ就職する人が圧倒的。『戻りたい地元』『戻れる地元』にしたいです」。阿部さんら若手の元気をエネルギーに、同社の挑戦は続く。



## 後輩へのアドバイス

就職活動は何よりも「根気よく」、そして「めげない」こと。なかなか自分の思い通りにいかないほうが多いと思います。

学生時代はいろいろなアルバイトをしてみるといいですよ。特に興味のある分野や、将来仕事にしたいと思ったことは、ぜひ経験すべき。ただ、僕の場合は一番好きなことは仕事にしませんでした。趣味は、休日に純粋に楽しみたいと思って。これは考え次第ですね。

就職して1年目は、役に立っているかどうか不安になるものです。そんなときは、自分が採用された意味をあらためて考えてみましょう。そして、目の前のことに集中すれば、ポジティブな気持ちを取り戻せるはずですよ。



### 企業情報

## 国見まちづくり株式会社

所在地 福島県伊達郡国見町大字藤田一丁目2-17  
TEL: 024-585-2132  
<http://www.machizukuri-923.co.jp/>

代表取締役 太田久雄

資本金 5,000万円

設立 2015年3月

従業員数 79人 (2018年11月現在)

事業内容 道の駅、公共施設の維持管理および運営、  
生鮮食品、加工食品等の販売、  
総菜等加工品の製造および販売



# 新薬の開発を通して 新しい「福島」を 世界に発信したい

さとう たかひろ

## 佐藤 隆宏さん

日本全薬工業株式会社

研究開発担当 2013年入社 郡山市出身 31歳

### 就活で初めて知った 地元にある優良企業 の存在

福島県郡山市の郊外、緑に囲まれた小高い丘の上に日本全薬工業株式会社（ゼノアック）はある。広大な敷地には、研修管理棟を中心に工場や研究棟が建ち並び、敷地内に入る全ての車輛はゲートでミストシャワーを浴びるようになっていて、製薬会社ならではの感染症対策である。同社は創業から70余年、畜産用の「鉱塩」から始まり、牛、豚、鶏のような産業動物向けから、犬、猫などの小動物向け、さらに研究用試薬など多岐にわたる。現在はコンパニオンアニマル（ペット）向けの製品開発を中心に、400種類以上の製品を製造、販売している。

佐藤隆宏さんは入社して6年目。福島市で生まれ、12歳の時に郡山市に移り住み、地元の高校を卒業後、東京理科大学理工学部工業化学科に進学する。「有機合成化学」に興味を持ち始めたという。有機合成化学とは、簡単な化合物を原料として、いろいろな有機化合物を作るといったもので、医薬、調味料、合成洗剤、

合成繊維・プラスチックなどさまざまな製品を生み出す研究分野だ。有機合成化学の楽しさに魅了された佐藤さんは、より深く学ぶために、学習院大学大学院に進学した。

### 新薬開発に最も大切なのは 「チームワーク」

大学院卒業後の進路を考え始めた時、真っ先に頭に浮かんだのが大好きなふるさと郡山へのUターンだった。「地元での就職先を探した時、初めてゼノアックという企業が郡山市内にあることを知りました。動物が大好きで、研究職志望だった僕にとって理想的な職場でした。」

入社後は生産部品質管理チームに配属された佐藤さんだが、2018



サンプルの希釈をする様子。



## 佐藤さんの ある日の一日

8:20 ● 出社

8:30 ● 朝礼

月に1回、本社全員がWebを通して朝礼に参加。終了後に、メールチェックとその日の業務確認をする。

9:00 ● 業務開始

ラボで製剤の試作を行う。

12:00 ● 昼食

社内のカフェテリアでランチ。

12:45 ● 業務再開

引き続き、製剤の試作をする。

14:00 ● 定例報告会

製剤技術チームで個々の進捗状況をリーダーに報告する。

16:30 ● ラボの片付け

その後、日報作成やリーダーとの打ち合わせなどを行う。

17:10 ● 終業

### 「好きなこと」を 仕事にできる喜びを実感

同社の強みについて佐藤さんは「直販システムにより、製造から販売まで自社で行うことで、お客様の

年の秋に現在の部署に異動の辞令を受けた。CMCセンターは、薬の研究開発を行う段階から製造や品質管理に落とし込むまでのプロセスを担当する部署だ。「医薬品を販売するためには、その効果効能をデータとして国に提出し、認可を受けなければなりません。そのため規格試験を繰り返して、データ化するのが僕の担当です。目標を達成するため、チームワークを大事にしています。」

声が開発現場にもタイムリーに届くことにあります」という。業界で唯一、自社の販売拠点を全国に有し、動物薬専門メーカー機能と直販体制を整えているほか、4つの動物種別に分かれた営業スタッフが専門性の高い情報を提供、コンサルティング活動を行う。こうしたお客様との信頼関係を築く企業姿勢が評価され、2016年には「日本経営品質賞」を受賞した。

同社の「経営品質」は、福利厚生制度やスキルアップするための各種研修制度など、社員が働きやすい職場づくりにも活かされている。こうした環境の中で働けることを「現在チームで取り組んでいることが僕の本当にやりたかった仕事なので、と

ても充実しています」。また、「実験が大好きで仮説を立て、それに向かって試験を重ね、ようやく一つの答えにたどりつき、『なるほど、こういうことだったのか!』と分かった時の達成感がたまらないです」と研究職の醍醐味を語る。



製剤技術チームのみなさんとスケジュールについてミーティング中。

上司に  
聞く



CMCセンター  
製剤技術チームリーダー  
加藤 幸仁 さん

### 仕事に向かう積極的な姿勢 盛り上げ役としても大活躍

佐藤君が入社してから、ずっと同じ部署で仕事をしてきました。頼んだこともすくばやってくれますし、後輩の面倒もよく、会議でも口火を切るなど誠実で積極的で、安心して仕事を任せられることができる好人物です。

リーダーシップもあり、朝礼でもしっかり声を張っています。中でも一番元気がのが飲み会で、いつもみんなの盛り上げ役として活躍してくれています。

同時進行でいくつかの仕事をする必要がある時、密かにあたふたしていることがあるようなので、一つ一つの仕事の納期を確認し、スケジュールリングした上で取り組めば、さらに成果が上がるのではないかと思います。CMCセンターで思う存分力を発揮してください。これからも期待しています。

# 福島県で はたらく魅力

## 家族とふるさとへの 思いに支えられて

佐藤さんが郡山へリターンしようと思った背景には、家族との強い絆があった。それを最も感じたのは、東日本大震災の時だったという。「震災の時、僕はまだ学生で東京にいたのですが、当初実家の両親とまったく連絡が取れなかったのが、とても心配しました」。後に、水道が使えなくなっただけで、祖母の家に両親や親戚が集まり、肩を寄せ合っただけで済んだと分かり、佐藤さんもほっとしたという。

「子どもの頃からおばあちゃん子



試験結果をパソコンに入力する。

で、家族のつながりを大事にする環境の中で育ちました。三世代同居も当たり前でしたので、いつしか自分は長男だという意識が芽生え、将来は親の世話をするのが当然と思っていました。それが、郡山に戻ってくるきっかけの一つになったのです。未曾有の震災によって改めて感じた家族の絆が、佐藤さんの人生の選択に大きな影響を与えることになった。

## 会社一丸となって地域を支援

「同社も震災によって工場が壊れた

り、積載荷物が崩れたりするなど大きな被害を受けた。その後、被災した第3工場は取り壊され、跡地には現在の快適で機能的な研修管理棟が建築されたのだという。佐藤さんの上司の加藤さんは震災当時のことを、「荷物が散乱した工場内を皆で片付けたり、掃除したりしたことで、一緒に頑張ろうという気持ちになりました」と振り返る。

震災後、会社一丸となつての復興支援活動もスタート。2015年には福井邦頭代表取締役会長が、福島原発事故による避難区域12市町村の事業再開を後押しする「福島相双復興官民合同チーム」のチーム長に就任し、現在も継続中だ。17年には、「とうほう・ふるさと総活躍応援私募債（地域貢献寄付型私募債）」10億円を発行し、私募債の手数料の一部を近隣の小学校に寄贈するなど、地域貢献活動も行っている。

「この秋は地域感謝祭を開催し、国内畜産物の食べ比べなどに、たくさんの方々に参加していただきました。こうした社会貢献を行う会社で働いていることは私たちの誇りです」。

## 福島県の元氣な姿を 見せることが返返し

同社は動物用医薬品事業におけるグローバルな展開に伴い、2018年10月ニューヨーク支店「ZENOAQ New York Branch」を開設した。05年に開設した「北京代表処」に続き、海外拠点も2拠点目。これまで日本国内で培った販売力を強みに、アジアのみならず欧米にも販路を拡大するという。人間界と同様に、動物も高齢化による介護やさまざまな疾病が問題となっている今、バイオテクノロジーを中心とした技術により、世界市場を視野に入れた創業開



昼休みに社内のカフェテリアで同僚と談笑。

## 佐藤さんの オフショット



### 愛犬コロとの散歩で ゴキゲン!

子どもの頃から動物が大好きだったという佐藤さん。自分が飼ったことはないものの、母方の祖母の家で飼っている歴代ワンちゃんに会いに行けば、癒されているという。「ペットショップに犬や猫とふれあいができるコーナーがあると、もううれしくて夢になって遊んでしまうんです」。

犬好きが高じて、動物に役立つことがしたいと同社に入社する。その思いが、新薬開発の原動力になっているのは間違いない。

発に期待が高まっている。動物用の減感作療法薬において世界で初めて遺伝子組換え技術を使用した、犬アトピー性皮膚炎減感作療法薬「アレルミューンHDM」を14年に発売した。さらに、18年には世界初の犬用膝炎承認薬「ブレンダズ」の国内販売を開始した。

そうしたグローバルな事業展開のベースにあるのは、震災を経験したことで社員全員が「今度はゼノアックから新しい製品を創り、世界へと届けよう」という気持ちで仕事に取り組んでいることにあるのだという。震災後入社した佐藤さんにとっても同様で、仕事に取り組みモチベーションにもなっている。「ペットは家族同様にかけがえない存在です。僕が開発した製品が、世界で販売されることで、多くのペットを救うことができれば、同時に福島復興の姿を伝えることにもなり、やがて福島に還元することにもつながるはず」と今後の抱負を語る。さらに「将来は転勤の可能性もあるかもしれませんが、必ず大好きなこのまちに帰ってきたいです」と笑顔を見せた。



## 後輩へのアドバイス

大学時代、就活時期を迎えた時、真っ先に頭に浮かんだのが、地元へのUターンでした。加えて、研究職が希望で、できれば動物に関連した業務というかなり限定した内容だったにも関わらず、それらの条件を満たす「ゼノアック」がすぐそばにあるとは。情報収集してみたて初めて当社を知ったのです。

このように、地元にもさまざまな企業がありますので、調べてみることをお勧めします。僕の場合は、家族のいる大好きなふるさとで、理想的な仕事ができ良かったと思います。



### 企業情報

## 日本全薬工業株式会社

所在地 地／福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1  
TEL : 024-945-2300  
FAX : 024-945-2394  
http://www.zenoaq.jp

代表取締役社長／福井 寿一

資本金／1億7,000万円

設立／1946年5月

従業員数／660人(2018年4月1日現在)

事業内容／動物用医薬品及び医療機器等の研究開発・製造・輸出入・販売、バイオ原薬受託製造



# 被災3県の高校生・大学生の 就職に関するアンケート

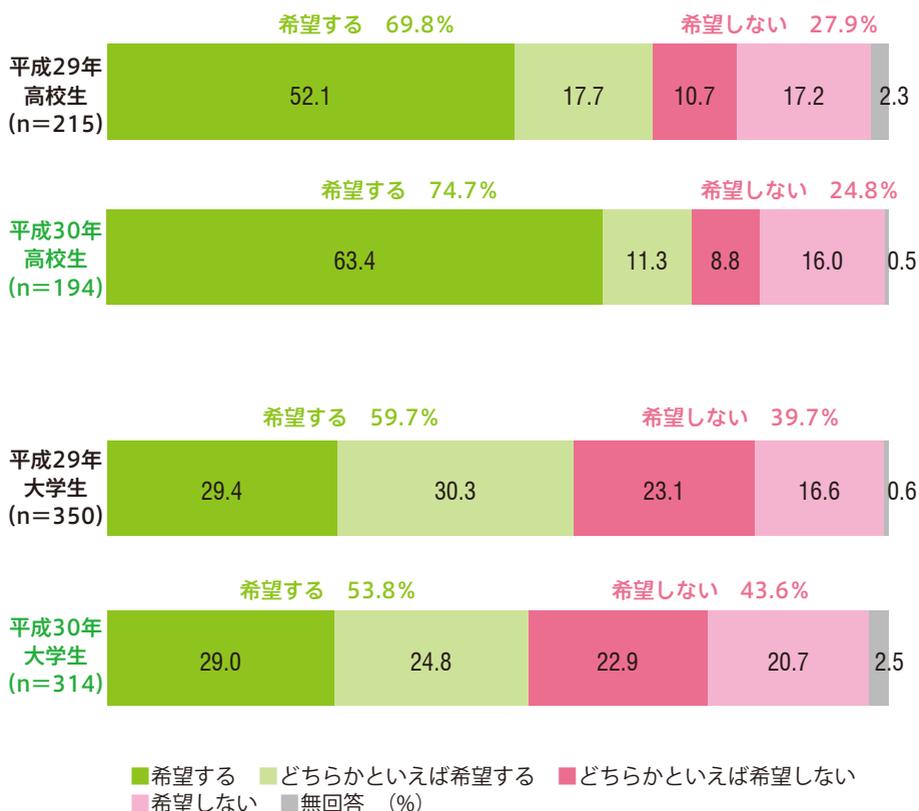
平成29年と平成30年12月に岩手・宮城・福島の高校生（水産系を中心）・大学生に対して、就職に関するアンケートを行いました。3県の学生の地元就職に対する考え方を見てみましょう。

※平成29年：被災3県高校生214名・大学生350名の回答から（2017.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

※平成30年：被災3県高校生194名・大学生314名の回答から（2018.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

## ■県内への就職希望について

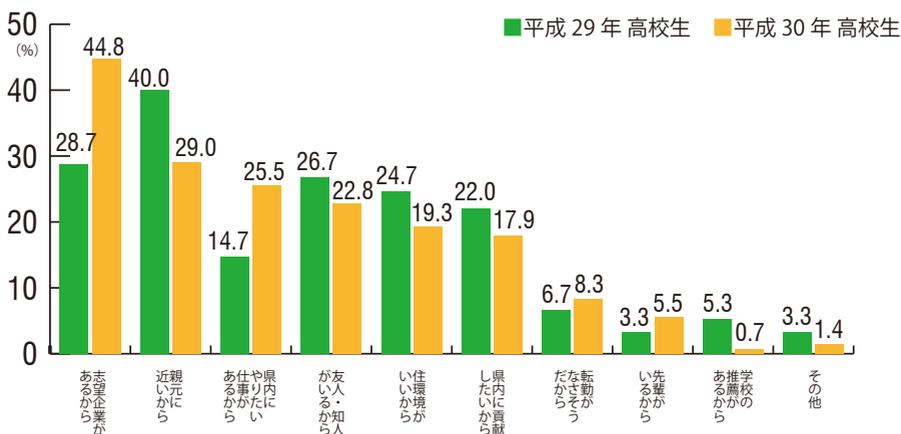
県内への就職希望者は、「希望する」又は「どちらかといえば希望する」と回答した学生が、高校生では約7割、大学生では約5割と、いずれも半数以上が県内就職を希望しています。



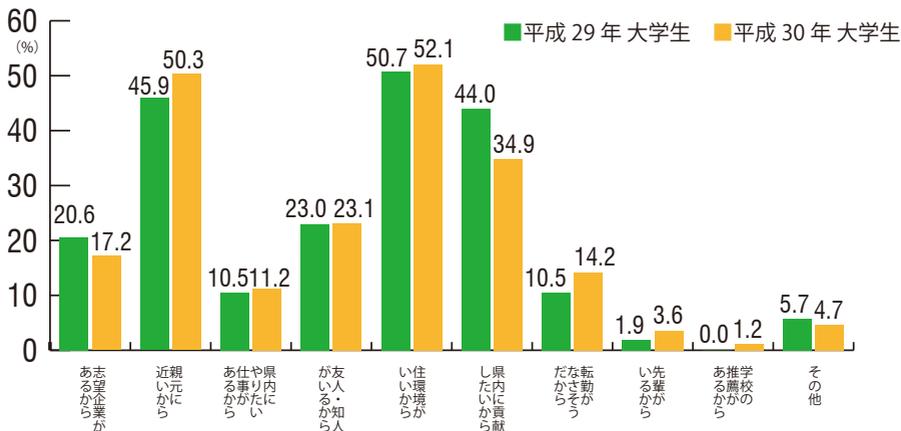
## ■ 県内就職を希望する理由

県内への就職希望理由は、高校生が「志望企業があるから」が最も多く、大学生では「住環境がいいから」「親元に近いから」「県内に貢献したいから」などとなっています。

### 高校生



### 大学生



## まずは、地元企業を 知ることから始めてみよう

就職先を選ぶ時に、大手就職サイトに掲載されているような、首都圏の大企業ばかりに目を向けてはいませんか？

みなさんが魅力的だと感じる企業を見つけるためには、なるべく多くの企業の情報に触れ、たくさんの選択肢を持っておく必要があります。それは、みなさんが知らない企業の中にも、魅力的で働きがいのある企業がたくさんあるからです。

「ジモト」で就職することも大事な選択肢の一つ。

今まであって当たり前だと感じていた家族や仲間、自然環境も、実はかけがえのない宝物です。

魅力ある就職先を見つけるために、地元企業を知ることから始めてみましょう。





問い合わせ先

---

**復興庁雇用促進班**

TEL. 03-6328-0274

---